

「企業的漁業と内水面漁業の安定的発展」の進捗状況

水産課・沿岸漁業振興課

○令和4年度末の進捗状況

① ICTを活用した資源管理の推進

- 魚種別分布予測システム※について、沖合底びき網漁業の主要な漁獲対象魚種15種を実装（目標達成）。

※魚種別分布予測システム

魚種毎の分布状況を予測し、漁業者へ迅速に情報提供することで、資源が減少している魚種の漁獲を避けたり、小型魚を避けて商品価値の高い大型魚を漁獲したりできる、効率的な操業を可能とするシステム。沖合底びき網漁業の主要な漁獲対象魚種で開発。

- 沖合底びき網漁業で同システムを活用して操業した結果、以下の効果を確認。

- 1航海あたりの漁場探索に要する時間が約8時間（27%）短縮
- 1航海あたりの漁獲金額が約180万円（23%）増加

【1航海あたりの漁場探索に要する時間と漁獲金額】

	2018年	2022年
1航海あたりの探索時間（時間）	29.3	21.5（-7.8）
1航海あたりの漁獲金額（千円）	8,013	9,825（+1,812）

② 優良種苗の放流による資源の安定化

- 県内河川環境に適した地場産アユ種苗を県内河川に放流。

- 親魚放流 2,030尾
 - うち 令和3年からの累代飼育分 360尾
 - 令和4年採捕分 1,670尾